



南部町立南部中学校 学校だより 第5号

チーム南部中

令和4年6月20日(月)
校長 望月和彦

南部中生としての誇りを胸に 峡南地区総合体育大会

総合体育大会（総体）は、中学校運動部の3つの教育内大会（他に選手権、新人戦）の中で最も大きな大会であり、三年間の部活動の最後の大会です。峡南地区大会を勝ち上がると、県大会、さらには関東大会、全国大会にもつながっています。運動部の生徒たちはこの大会を最大の目標にしてきましたが、コロナのために1月から3月まで2ヶ月間部活動が停止になったり、その後も活動時間や内容を制限されたりしてきた時期もありました。幸い5月下旬からは通常の部活動に戻すことができ、生徒たちは1分1秒を大切にしながら、地区総体を目標に心を一つにして一生懸命取り組んできました。そして、6月9日（木）11日（土）、峡南地区総体が種目ごとの会場で開催されました。

1日目の9日、私はバスケットボールの部の会場長として、市川三郷町のifセンター体育館でバスケット部の試合を応援することができました。男女とも今大会で部がなくなります。後輩のいない3年生だけのチームで、他の部の選手にはわからない複雑な思いもあったと思いますが、男子5人、女子7人の少人数で本当によく頑張ってきました。交代できる選手は男子はいず、女子も2人しか交替できる選手がいない状況でしたが、全員が最初の試合からフルパワーで走っていました。試合の途中、残念ながらけがをしてしまった選手もいましたが、最後の最後まであきらめることなく全員で戦い抜きました。激励会での男女バスケット部主将の言葉通り、「南部中の選手としてのプライド」を選手たちの姿にはっきりと感ずることができました。平日でしたがたくさんの3年生の保護者が応援に駆けつけてくれ、選手たちを励ましてくれました。保護者の皆様、今大会まで指導していただいた部活動指導員の石川啓一郎先生、本当にありがとうございました。

2日間に渡り、峡南地区内のそれぞれの会場で、熱い熱戦が繰り広げられました。その中で男女のバレーボール部が優勝、野球部がパート優勝、女子ソフトテニス部が準優勝という輝かしい結果を残しました。またそれ以上に、本校生徒たちがあいさつや礼儀、マナーがしっかりできていたり、試合の準備や片付けに積極的に動けていたり、相手チームや大会関係者、応援してくれた保護者に感謝の気持ちを表したりしながら大会に参加していたということがとても嬉しかったです。部活動の大切な意義を感じることができました。勝ち残ったチームや選手は、次の県大会、関東大会での活躍を期待しています。

各部の顧問による地区総体の報告を次に記します。

女子バスケットボール	<p>1年生の新人戦からこの『7人』で戦ってきました。何度も悔しい思いをし、その都度「次こそは」と決意をしてここまで来ました。そんな『7人』にとって最後の地区大会が終わりました。最初の大会では組織的な動きも全くできず、練習したことも発揮することができませんでした。しかし、大会を重ねるにつれ、少しずつ成長する姿を見ることができました。勝敗としては、目指していた1勝には届きませんでしたが、これまでの大会の中で一番得点を取ることができました。これで南部中学校女子バスケットボール部は長い歴史に幕を下ろしますが、ここで培った仲間との絆を大切にしていってほしいと思います。最後になりますが、支えてくださった保護者の皆様、地域のOGの皆様本当にありがとうございました。</p>	
男子バスケットボール	<p>男子バスケットボール部最後の大会が終わりました。第1試合の対市川戦では、今まで何度も練習してきた組織的な攻防で善戦したものの、第2クォーターで、キャプテンの琉偉さんが負傷してしまい、残り時間は4人で戦わなければならない事態に陥ってしまいました。しかし、人数的に不利な状況を感じさせないほど、精一杯コートを走り回る姿が見られました。最後の最後まで、あきらめずにボールを追う姿は、多くの人の心に残ったはずで、結果は、掲げた目標には届かず、悔しさは当然残りましたが、この試合からもたくさんのことを学べたようです。特に、一人のひとりの存在の大きさ、大切さについては、改めて再確認することができました。</p>	

女子ソフトテニス	<p>個人戦は1年生小泉穂幸さん、佐野音彩さん、佐野こころさんの3名が選手として出場。2・3年生に支えられながら、南中代表として練習の成果を出し切りました。2年生が成長につながる悔しさを味わう中で、3年生全2ペアは3位（芦澤那奈・草場珂奈ペア）・ベスト8（佐野結菜・朝夷実来ペア）で、7月2日の県大会への出場権を獲得。迎えた団体戦。南中チーム一丸となり、リーグ戦を3勝、決勝トーナメントへ進出し、準優勝。他校は、小学生からテニスを始めた生徒が活躍する中で、南中テニス部は日々互いのがんばりを支え合い、ひたむきに練習に励み、力を伸ばしてきました。その良さを生かしながら、7月27日の県総体にむけてあと1ヶ月半がんばります。</p>	
男子ソフトテニス	<p>地区総体・個人戦では、遠藤暖・佐野陽音ペアは、3年生の陽音さんが後輩と息の合ったチームワークで善戦しましたが、代表決定戦の最後で惜敗しました。佐野航太郎・遠藤星南ペアは、ファイナルゲームまでもつれ込みましたが、ミスが続き1回戦で敗れました。他のペアも初戦を突破したのが2ペア、初戦敗退したのが2ペアでした。団体戦では、県大会の残り2枠を賭けて、4校でトーナメントが行われましたが、鯉沢中に1勝2敗と惜敗しました。たった2人の3年生でしたが、他校に負けない存在感を感じました。これまで支えてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。</p>	
女子バレーボール	<p>選手権大会では、チャンスの場面でのミス、ミスが続いての連続失点と自分たちの試合のペースが掴めないまま3位に甘んじました。以来1ヶ月、課題克服を目指して技術や気持ちを高めてきました。決勝リーグの六郷戦では、1セット先行される等、常に緊張する試合でしたが、勝利への思い・集中力を切らすことなく競り勝つことができました。最後まで諦めず、気持ちをプレイに込めることの大切さを感じた大会になりました。古人曰く、勝って兜の緒を締めよ、と。気を引き締め、県大会で更に気持ちの入った試合ができるよう頑張ります。保護者の皆様、これまで女子バレーボール部の活動にご理解、ご協力してください、ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。</p>	
男子バレーボール	<p>南部中男子バレー部の魅力は、「最後まであきらめない」「チームワーク」という言葉を体現したようなバレーができることです。峡南地区大会は、南部、市川、三珠の3チームでのリーグ戦が行われました。2試合共に、全員でボールを繋ぎ、得点しても、ミスしても仲間と声をかけあい、目の前の1プレーに集中して試合を進めました。その結果、常に優勢に試合を進め2-0と1セットも奪われることなく、優勝旗を持ち帰ることができました。県総体では熱心に指導して下さるコーチ、そして常に支えて下さる保護者のみなさんへの感謝の気持ちを、3年間、追求してきた全員で守って、全員で攻めるプレーを通して伝えられるよう精進したいと思います。</p>	
野球	<p>県選手権のベスト4進出により県大会へは推薦出場となりましたので地区大会ではシードとなり、Bパートの決勝戦のみの試合となりました。対戦相手は1日目に増穂中に勝って県大会出場を決めた三珠中学校でした。前々日の練習でレギュラーの3年生が怪我をして出場できなくなり不安もありましたが、3年生を中心に、課題としたバッテリーを中心の速いテンポの守備が機能し、10対0（5回コールド）で勝ち優勝しました。エースが出場できない状態の三珠中とはいえ、新人戦では接戦になっていた力のあるチームです。監督の先を見通した確かな指導と、それを信じ懸命に練習した選手、常に援助して下さった保護者、チームワークの勝利でした。（部長）</p>	

萩原玖美先生との3週間

5月30日から6月17日までの3週間、卒業生の萩原玖美さんが本校で教育実習を行いました。生徒たちと触れ合いながら、教員としての仕事や心構えを実際に体験しながら学んでもらいました。生徒たちも年の近い先輩である玖美先生との出会いの中で、貴重な思い出をつくることができましたようです。



「図書読」

読書活動を推進するために、本校では朝の会の前に10分間の「朝読書」を行っています。図書委員会では、図書室をさらに活用してもらうために、学級ごと図書室で朝読書をしてもらう「図書読」を昨年度から始めました。こうした活動の中で、自分の心を豊かにしてくれる大切な本に出会って欲しいと思います。

